

蛹からの脱皮に苦しむ少年

対応して2か月余の5月20日、父親に学校まで送ってもらい、タイミングよく担任の先生と出くわせ、4か月ぶりに授業復帰を果たした少年。

心理テストからは中程度の父性と低い感性に、異常に高い知性と順応性。詳しい成育歴を聴くに、4月生まれで背も高く、中学校入学して最初の定期定期試験で主要5科目が軒並み40点に、周りから称賛を浴び、兄貴的な存在に押し上げられ、戸惑ってしまう。加えて、第1子故に両親から、祖父母からも一気に期待され、それに応えようと勉強するも、限られた範囲の定期試験と違って、これまで約1年間の総合問題の1月の県の学力調査で軒並み40点を割ってしまった。勉強は勿論、塾にもゲームにも何にも手に付けられない状況に陥った。友達に点数を聞かれ、無様な自分を曝け出せず、不登校に。周りからは学校に行けない「変な子」と思われていると思い込む。

中学校の先生からの紹介で、当フォーラムを尋ねて来られた。いつもの通り、詳細な成育歴と心理テストから、不登校の科学的、心理的素因を分析したのが前段の内容である。まずは、年齢に応じた行動（即ち、学校に登校する）を取れるように、不登校でも学校に行っている友達と同じ時間割で、提示した自立学習方法で自宅で勉強する。加えて、当フォーラムの父性成長プログラムを実施し、勉強する自らの目的を明確化させた。聴くに、水質浄化の研究で疫病を防ぎ、発展途上国の子ども達の命を救いたいとのこと。ならば、その研究者がいる国立某大学に進学する。そのためには、目先の高校進学を果たせなければならない。それで、彼は授業復帰を果たした。

しかし、不登校になった4か月のブランクのため分からない授業に、定期試験が3週間後に迫っている。そこから逃れ、楽な気分になる不登校を経験したがために、登校するか否かに葛藤する。それを乗り越える意志力（父性）が、不登校を解消する。